

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

### 21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203  
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213  
E-mail: info@aac21.net

【カンボジア事務所】 Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu.  
Kingdom of Cambodia  
電話 (855) 12-737-559 (855) 78-784-808

【ホームページ】 AAC21

【公式ブログ】

# 会報

## 幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう



# アンコールワット

発行日 2013年（平成25年）5月1日

第70号

（年6回発行）  
（奇数月）

### 卓球でカンボジアの子どもたちとお友だちに！

三月十日、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」（コンボンズプー県チュバモン郡）の図書館にて「第四回ニッタク夢ホーム地域卓球大会」が開催された。



卓球大会に参加したカンボジアの子どもたち

### 新潟の三林けい子さんが卓球大会を開催

主催したのは「新潟発！カンボジア支援プロジェクト730」（三林けい子代表・新潟市中央区室町、里親会員）。「日本卓球株式会社」及び「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」が特別協賛した。

当日は、夢ホームの子どもたちや地域の中学生、ブノンペンのフリースクール「愛センター」などから二十人が参加。予選リーグのあと、決勝トーナメントを行い、スレイネットさん（愛センター）が優勝した。

次回、第五回の大会は今年の十一月、ブノンペン市内で開催する予定。

主催した三林さんは夢ホームの専属ボランティアとして三月六日～十日、夢ホームに滞在、子どもたちにミシンや音楽指導してくれた。

三林さんは「卓球を通じてカンボジアと日本の友好に役立つことができたら最高です」と話している。



決めた！スマッシュ！

「愛センター」などから二十人が参加。予選リーグのあと、決勝トーナメントを行い、スレイネットさん（愛センター）が優勝した。

### カンボジアふれあいの旅に10人の会員さんが参加

第二十三回「カンボジアふれあいの旅」が三月六日～十二日に行なわれ、十人の会員さんが参加した。初参加は三人。

昨年十一月に続き今回もブノンペン中心の日程で、オブシヨナルツァーとして、五人が日帰りのアンコールワット観光を楽しんだ。

一行は、小学校を訪問して井戸贈呈式・学用品の配布・生徒たちとの交流、里子の家庭訪問、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問して子どもたちとの交流、カンボジア国会議員をお招きしての国会、ブノンペン市内観光など多忙な日々を過ごし、十二日早朝、日本の各空港に到着した。



小学校で学用品を配る参加者の伊藤美代子さん

### カンボジアの農村に共同トイレを！

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

カンボジアの農村に住む子どもたち（里子）の家に日本の教育里親さんを案内するとき、一番困るのがトイレである。

普及率の統計はないが、大半の家にトイレらしき建物はない。ではどうしているのかと問えば、裏庭のあらうか。

今年の一月、団体客がある小学校に案内したとき「いま一番ほしいものは何ですか？」との質問に生徒たちは声を揃えて「トイレがほしい」と言っていた。この小学校にはトイレがなく、生徒たちは不便を感じて



小学校にあった4人用共同トイレ

り軽減したかに見える。それでもまだ、川や池の水、雨水に頼っている村も多いので、本会は井戸掘りや共同トイレの設置を始める。至る所にトイレがある。公園を始め、至る所にトイレがある。私の若い頃、アパートは共同トイレだったが、今では各部屋に付いているらしい。

では予算はどのくらいかといえ、2人用（男女各一部屋）で12万円、4人用の大型トイレで22万円ほどで完成する。設置後のメンテナンスに費用はかからない。

カンボジアの農村に共同トイレを贈る運動に、皆様のご支援をお願いいたします。問い合わせは本会事務局へ。（☎03・3991・2854）

### カンボジアの子どもたちをサポートしてください



小学校で勉強する里子たち

### クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば68年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

- 【年会費】：子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入（毎月2500円×12ヵ月）のどちらも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。
- 【会費の用途】：学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金などに使われます。このほか、現地スタッフの給料、ガソリン代、事務所家賃など現地でかかる経費、通信費、印刷費など東京の本部でかかる経費として使われます。
- 【サポート期間】：最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙（日本語に翻訳）と写真が届きます。
- 【里子との交流】：里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。現地で暮らす里子に会いに行くための旅行も年3回実施しております。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金（税金）は一切いただいておりません。

### 児童養護施設《夢ホーム》日記

児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物が完成、同年3月に開園しました。現在、5歳から18歳までの17人の子どもたちが入園、近所の小・中・高等学校へ通学しています。

#### 三林さんと宮川さんがボランティア活動



にわか音楽隊ができました

3月6日、三林けい子さん（新潟市・里親会員）と宮川公子さん（宮城県石巻市・里親会員）が訪問、三林さんは10日まで、宮川さんは13日まで滞在し、子どもたちにピアノ、ミシン、卓球などを教えてくれた。日本食も持参し、子どもたちと一緒に味わった。

#### ふれあいの旅の皆さんが訪問



なかなか釣れないねえ～

3月8日、ふれあいの旅でカンボジアを訪問した一行が訪問、子どもたちと交流した。三林さんと宮川さんが子どもたちにピアノを指導、にわか音楽隊が一行を歓迎してくれた。池の魚が大きくなり、子どもたちと一緒に魚釣りを楽しんだ

#### お米を沢山いただきました



ありがとうございました

会員さんから沢山お米をいただきました。なにしろ子どもたちはよく食べるので、お米の寄贈はありがたい。（1ヶ月で300kg消費します）

寄贈して下さった方は次の通り。  
・園田健次、美代子様・佐藤たず子様・佐野和俊様・宮川公子様  
・平古場正行様・今紀子様  
・作間きい子様・後藤美由紀様

#### 野菜畑ができました



はやく大きくなれ

昨年7月、ボランティアで訪問してくれた阿部峰子さんが池の周囲に野菜畑を作ってくれたが、その範囲を広げ、この程約50坪の野菜畑が完成した。子どもたちが朝夕水をやり、成長した野菜はおかずとして食卓に出している。

#### 洗剤とポリタンクをいただきました



暑い国では洗濯は毎日の大仕事です

三林けい子さんが代表を務める「新潟発→カンボジア支援プロジェクト730」（新潟市）より洗剤1年分が寄贈された。また節水のため、鈴木春男さん（カンボジア、シエムリアップ在住・里親会員）が夢ホームの井戸に大きなポリタンクを設置してくれた。



作った製品を前に並べて記念撮影

三月十三日～十五日、板金加工技術修得のため職業訓練プロジェクト「もの作り技能講習会」（第十六回）が児童養護施設《夢ホーム》にある職業訓練棟で行なわれ、夢ホームや近所の子どもたち（八人）が参加した。鈴木千雄さん（愛知県あま市・里親会員）が技術指導した。今回はより高いレベルに挑戦、上手に仕上がった。開校式には地元中学校の校長先生も出席、鈴木さんが作製したじょうろをいただき喜んでいました。次回（第十七回）の講習会は五月七日～九日を予定。

### 第十六回「もの作り技能講習会」開催（夢ホーム）

### 3月はカンボジアの小学校に3つの井戸を寄贈



3月は手押しポンプ式井戸を3基、カンボジアの小学校に寄贈した。その内の2基は、松原睦美さん（函館市）の寄贈によるもの。

松原さんは2006年から今年までの8年間、毎年2基の井戸をカンボジアの小学校に寄贈、通算の数が16基になった。「継続は力なり」。

子どもたちはじめ地域住民にとって、井戸は生活に欠かせない水源だ。カンボジアの各地で、井戸の設置を心待ちにしている。井戸は1基16万円（ネームプレート等諸経費含む）で提供できる。

#### 3月に完成した井戸の内訳

寄贈者名	学校名	生徒数	学校の所在地
① 竜ヶ崎ロータリー・クラブ様	チョムラウワット小学校	222人	シエムリアップ県チアクレン郡
② 松原睦美様	チョムフルック小学校	560人	コンボンズプー県ウドン郡
③ 松原睦美様	ターブラップ小学校	231人	カンダール県アンサナル郡

※通算の井戸設置数（2003年～）＝224基（3月現在）

### 投稿 お兄ちゃんばっかり 今 紀子



友人が「里子にあげて、近所の人から衣類ももらったんだけど、事務所に頼もうかしら？」そんなもの頼まないで、頼まれた方はどんなに迷惑するか。とにかく、自分で持っていくこと。持っていけないなら、安易に物はもらわないこと。すったもんだのあげく、再び代理里親をやることになった。

以前届けた「小犬のぬり絵」は、難しそうだったので、今回は単純な絵に楽しく色がつけられるように工夫してみた。友人が訪問した時は、まだ未完成だった「小犬のぬり絵」を真っ先に持って来た。

「でかした！豆画伯！」上手に色がぬってある。進歩のあとがみられた。

今回は、弟の分も「ぬり絵」とクレヨンを用意してきた。妹には、小さなサックに洋服をつめて持って来た。いつもお兄ちゃんばかり、いろいろなものももらうのに、今日は私もプレゼントがあるというので、目が輝いていた。さっそくお気に入りの洋服を引っ張りだすと、見せびらかしにやっていた。

井戸の贈呈式があると、私はいつも櫛を用意して、子どもたちに髪をすいてやったりする。男の子はいやがるだろうと思っただけで、とても喜んでくれた。

小さな子でも男の子でも、美しい物に対する感受性は豊かなのだと感じた。その感受性を、良い方向に導いてあげられたいなと思っただけだ。（会員・東京都）



忠犬八公がブンペンに出現  
カンボジアで英字新聞「カンボジア・デイリー」を発行するバーナード・クリッシュャーさんが、ブンペンの書店の玄関先に忠犬八公像を建立した。その精神をカンボジアの人たちにも理解してもらおうと造ったものだ。犬の顔つきはどことなくクメール風ではある。

### 水汲みは子どもたちの仕事



カンボジアの農村には水道がなく、また川や池などの水源が遠いため、水汲みは子どもたちの仕事だ。運んできた水を水かめにいれ、生活水として家族みんなで使う。蛇口を捻ると水が出る日本は恵まれている。

### 旧式の井戸は土管式



本会社がカンボジアで造る井戸は手押しポンプ式だが、時折り土管式井戸を見かける。深さは五メートルくらい、上から埃やゴミが混じるので不衛生。水もかなり濁っているが、生活のためにはやむを得ない。バケツを降ろして水を汲み上げるのも子どもの仕事だ。

### 井戸水を運ぶリヤカー



本会社が小学校に造った井戸の水を運ぶリヤカーを見かけた。水だけでも重いのに、子どもを乗せて引張るお父さん、偉いです！

### カンボジアの郵便局は県に1ヶ所



カンボジアでは日本のような郵便制度がない。配達も集配もないので、必要時は各県に一つある郵便局へ行き、用を済ませる。最近EMS（国際スピード郵便）が発達し以前より便利になったが、配達してくれないので、郵便局まで受け取りにいのがカンボジアスタイルだ。

### 障がいのある子どもと一緒に授業



小学校を訪ねた時、障がいのある子がいた。障がいの子がいたので、子どもを一緒に授業させた。

### 工場が次々と建設



カンボジアの経済成長率は6%、海外からの投資や工場誘致が進み、工場が次々と建設される。心配なのは労働力の確保。最近では小学生でも中途で退学し家庭を助けるため工場に働く子が増えている。教育の充実が国の発展に繋がると思っている。

# 新潟から初の小学校建設 → 2年後完成予定



先生たちが出迎えてくれた

新潟発！初めての小学校建設が計画され、三月八日、本会理事の三林けい子さん（新潟市・里親会員）が建設を予定している小学校をリサーチした。

予定地は、ブノンペンから車で二時間の「コンポンチャム」県。副校長らが迎えてくれ、説明を受けた。既存の校舎は老朽化していて、風の強い日は危険なので授業を中止するそうだ。

「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」（新潟市秋葉区）の支援を受け二年後に完成の予定。またそれまでの間に、三林理事がカンボジア訪問の折、支援品を届けることを約束した。

## 里子家庭訪問記録

名前：ヴォン・ヴィン	学校名：クランボニエア小学校	
年齢：8歳	学年：小学校の3年生	性別：男の子
住んでいる場所：コンボンスプー県、ウドン郡、ブン村		
学校までの所要時間：徒歩で25分		
好きな教科：国語（特に読解が好きです。）		
苦手な教科：算数（特に引き算の計算式が難しいです。）		
担任から一言：成績、道徳はA 健康はA 学校活動はA 出席はA		
家庭状況：4人の兄弟です。お姉さん2人、お兄さん1人、ヴォン・ヴィン君は第4子です。お父さんを亡くしています。お母さんがいます。現在、お祖母さんと暮らしています。		
一日の過ごし方：朝5時頃に起きます。それから、家の掃除をします。朝食は6時頃にし、水浴びます。そして、身支度をし、午前7時から11時まで通学をしています。授業が終わってから家に帰ります。11時半頃に昼食をし、午後は家事の手伝いをします。毎晩、夕食の後、お皿の片付けをしたり、本を読んだりしています。そして、9時半頃に寝ます。		
好きな遊び：サッカーをするのが好きです。		
好きな食べ物：スイカ、卵		
将来の夢：国語の先生です。		



家の前でお祖母さんとヴォン・ヴィン君

備考：ヴォン・ヴィン君の家を訪問した時は、お祖母さんとヴォン・ヴィンちゃんがお家にいました。家は3×4mの平屋で、ぼろぼろな状態です。お母さんは他の男の人と一緒に遠い所に行きました。2人のお姉さんは他の人の家に手伝いさんとして仕事をしています。お兄さんは小学校の6年生です。お兄さんとヴォン・ヴィン君が可哀そうでしたので、お祖母さんは2人を家に連れて来ました。ヴォン・ヴィン君は里親さんの里子になったので、嬉しそうでした。

担当者：ニョウ・ピン（現地スタッフ）



里子と対面した宮川公子さん

相変わらず中途退学者が後を絶たず、悩みの種になっている。急速な経済発展により次々に工場が建設され、企業は送迎付きで若年労働者を募集している。海外から進出してくる企業のねらいは安い労働力であり、真からの国の発展は二次である。国をあげて教育のレベルアップをはからないと、貧しさは解消されないと思うのだが。

### クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚等により両親や片親を失い、経済的に貧しい環境にあるカンボジアの子どもたちが学校に行けるよう二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設、三月末日現在約三百五十人の子どもたちを教育支援している。

三月に行なわれた「カンボジアふれあいの旅」では四人の里親さんが参加、九日、里子の家庭訪問に出掛けた。里子たちは、思いがけないプレゼントをもらい喜んでくれた。

また、夢ホームでボランティア活動してくれた宮川公子さんも合間を見て里子を訪問、里子から要望があった自転車やプレセントした。この他、里親さんから現地購入などのプレセントを沢山届けて、現地スタッフが支援金とともに届けられた。

## トゥッサナー・カンボジア



乾季のカンボンプロック村

### 水上生活者

今年三回目の十一月の「ふれあいの旅」はシエムリアップ州のカンボンプロックの水上生活者の見学が計画されていると理事長から聞いています。私は二〇〇九年十一月の乾季に移る時期に愛知県の鈴木さんと訪問しました。二人とも感動しました。水につかった村にはお寺もあり、小学校もありました。小学校で授業を参観したり、教室に入って子どもたちと談笑しました。二〇一〇年五月の乾季に一人で再度訪問しましたが、埃っぽく、雨季の方がずっと良かった。

## 「竜ヶ崎ロータリー・クラブ」が井戸を寄贈：トロパントム小学校に図書館兼集会室を建設



挨拶する岩田ロータリークラブ会長（右端）

三月十三日、「竜ヶ崎ロータリー・クラブ」（茨城県竜ヶ崎市）の会長ほか六名がカンボジアを訪問、シエムリアップの小学校に井戸を一基寄贈した。根岸理事長が同行した。

同クラブは、二〇〇九年から今年までの五年間で、カンボジアの小学校に井戸を八基寄贈した。



村の役員、学校の先生、工事関係者らと

昨年三月、本会理事の石川桂さん（愛知県安城市・里親会員）がカンボジアの小学校に校舎とトイレを各一棟ずつ寄贈したが、その後、地元の前住や村の役員さんらと何度か話し合った結果、石川さんの資金提供により、要望があった図書館を建設することになり、三月十日、着工式が行なわれた。七月に完成する予定。

図書館は、生徒のみならず地域の皆さんの集会室を兼ねており、多目的に活用することになっている。

## 桑原淑子さんが「二本松ロータリークラブ」で講話



講話する桑原淑子さん

今年一月にカンボジアを訪問、現地の小・中学校などで音楽の授業を行ってきた桑原淑子さん（福島県二本松市・里親会員）が二月十三日、カンボジアに同行した「二本松ロータリークラブ」の例会で講話、カンボジアでの活動を報告した。

また、桑原さんの活動が地元紙「福島民報」に掲載され、反響を呼んでいる。桑原さんは今年十一月に再訪問し、現地の音楽家らとコンサートを開催を計画している。

## 石川理事が「安城市ライオンズクラブ」で講演



講演する石川理事

二月六日、本会理事の石川桂さん（愛知県安城市）が「安城市ライオンズクラブ」で講演、本会を通じてカンボジアにおけるボランティア活動についてお話しした。（会場：碧海信用金庫本店会議室）

カンボジアで小学校を建設した石川さんは、単なる寄贈に留まらず、子どもたちの教育のあり方について、学校の先生や地域住民とともに考えていこうと意欲的に取り組んでいる。

と書いています。十一月に行かれる方はきつと感動なさると思います。

トシレサップ湖の周辺には大きい水上生活村は数カ所あります。小さいのを入れると二十〜三十以上あるのではないかと思います。私の知っている大きな水上生活村はコンポンチャム州の「コンボン」です。大変大きく、水上村の中に、学校、病院、役所、ガソリンスタンド、船の修理店、生活用品店が何百とお互いに商売をして生活しています。（兵庫県宝塚市・理事、中野 勝）

\*トゥッサナーとは観察するという意味です。

## カンボジアミニミニニュース

現地で行っている新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介いたします。

**ボルボト政権 最高幹部イエンサリ元副首相死亡**

カンボジアで一九七〇年代に虐殺や強制労働により百七十万人以上の命を奪ったボルボト政権の最高幹部のひとり、イエンサリ元副首相が病気のため死亡した。

イエンサリ元副首相はボルボト政権の崩壊後、一度死刑判決を受けたが一九九六年にゲリラ戦による抵抗をやめ政府に投降するのと引き換えに恩赦を受け、二〇〇七年にボルボト政権の罪を問うカンボジア政府と国連による特別法廷によって逮捕され、その後起訴され公判が続いていた。

日本人死亡のカンボジアジェットコースター、安全バーが付いてなかった

カンボジア北部の遊園地で、ジェットコースターに乗っていた日本人観光客が座席ごと放り出され死亡した。横田祥さん（21）という青森県出身の女性。コースターは一両二人乗り八両編成で、横田さんはカンボジア人のガイドと並んで先頭車両に乗り、カーブに差し掛かったところで座席ごと飛ばされ落下、レールなどに頭をぶつけたらしい。ガイドも重傷を負い病院に運ばれた。

コースターの先頭車両には体を支える安全バーが壊れていてついていなかった。

**ポーサット「道の駅」が再オープン**

ポーサット州の国道五号線沿いにある「道の駅」が再オープンした。

「道の駅」は日本政府の日・アセアン統合基金を通じた支援により建設され、二〇一〇年に開業した。公共施設だが、財政負担を軽減するために施設の運営管理を民間に委託している。二〇一〇年の

## 写真展「アジアの子どもたち」

カンボジア、インド、雲南省（中国）、スリランカなど、アジアで活動するNPO団体の写真を展示し、活動報告いたします。入場無料ですので、お気軽にお越しください。

日時：6月6日（木）～9日（日）  
6日は14:00～19:00  
7日と8日は10:00～19:00  
9日は10:00～14:00

会場：八王子学園都市センター  
（11F第2ギャラリーホール）JR八王子駅北口徒歩5分

詳しくは、本会事務局へお問い合わせください。（電話：03-3991-2854）



投稿

「のんびり」も「鍵盤ハーモニカと遊ぶ」

宮川公子

三月六日（十三日）、宮川公子さん（宮城県石巻市）がカンボジアを訪問、夢ホームと近くの小学校で音楽指導をしてくださいました。ご本人より投稿していただきましたので、紹介します。

夢ホームにて

三月六日 二十二時二十分  
最終便「KE686」大きな機体が、プノンペン空港の構内へと徐行し始める。いよいよカンボジア入りである。空港で、出迎えてくれた三林さんとタクシーに乗り込む。プノンペンを後にした車は深夜の道を「夢ホーム」に向けてひた走る。

三月七日 五時五十分  
元気な子ども達の声と朝焼けの美しい空が、私を迎えてくれた。しかし、ゆったりと流れるこの時間と裏腹に、ハードなスケジュールも私を迎え容れたのである。

明日予定されている「ふれあいの旅」の方々に歓迎するオープニングステージ創りである。

九時三十分。三林さんに記名していた鍵盤ハーモニカを抱え、子ども達は三々五々、木陰へと集まってくる。準備してきた自作教材に眼を輝かせる子ども達。右手の爪に①⑤のシールを貼って準備完了。

ゲーム開始である。鍵盤・五線譜・指と、それぞれに数字合わせをしていく。鍵盤の上を五本の指がスムーズに動く。OK。ここで教材用楽譜を一人ひとりに配る。

十分も経過したのだろうか。「キラキラ星」のメロディーが園庭の木々にこだまし始める。高校生の出番である。打楽器パート担当と指揮者を決める。実に呑み込みが早い。作品として仕上がりが見えてきた。三林さんの提案で、歌と身体表現も加え明日に備えた。

自主練習をしているのだろうか。遅くまで鍵盤ハーモニカの音色が各部屋から流れていた。三月八日 朝食後、練習に入る。総まとめである。入退場、並び方、挨拶、演奏と三林さん指示のもと、子ども達はきびきびとこなした。十時 お客様をお迎えする。一日で仕上げたとは思えないほど、しつかりとオープニングステージを務める。脱帽、



トロピアンクロロン小学校で音楽の授業

脱帽。三月九日 三林さん、所用でプノンペンへ。

朝食後、ゆったり流れる時間の中で涼風を楽しんでいた。誰かが「キラキラ星」を弾いている。一年生のK君だ。はにかむK君と「チューリップ」の曲でまねっこあそび（交互奏）をする。

「弾けた、あッター」二人の歓声で子ども達が飛び出してくる。得意気に弾くK君。それに習い次々に弾きこなしていく子ども達。ひよんなきっかけで二曲完成。

きつと明日の「交流スポーツ大会」でも、子ども達の演奏が開幕を飾るだろう。

三月十日 交流スポーツ大会 並び方に時間をかける。横三列。ひな壇的に構成する。入退場に「やり直し」がかかる。

やがて、開会式。子ども達の直向きさに万感を込めて拍手を贈る。スポーツ大会は、成功裡に終了した。プノンペンに帰る「愛センター」の子ども達と一緒に、三林さんは帰国の途についた。

誰だろうか？黒鍵だけを弾いている。大きな体が灯りに浮かぶ。保父さんだ。どうやら、黒鍵が気になるらしい。「キラキラ星」をへ長調に移調し黒鍵シロを使った。満面の笑みが私に返ってきた。

早朝、木陰で子ども達とへ長調の「キラキラ星」を弾く保父さんの姿があった。トロピアンクロロン小学校にて

土ほりの道を走ること三十分、トロピアン小学校へ着く。校門のわきには、牛、牛、牛。やさしい眼が私を追う。ひと群れで大歓迎……。すばらしい訪問一日目。教室に入る。紙が散乱し埃だらけ。黒板には加法の計算問題がびっしり。考えられない光景に一瞬惑う。が、

これも風土であろうと受け入れる。その間、サボート役のピン君が窓の開閉、キーボードの設置と私が進め易いようにテキパキと準備している。「OK?」「OK?」元気な声が教室に響く。三人一組共同作業である。三人出来て、メダル賞。数字合わせゲームは続く。

いよいよ発表会である。審査員は子ども達全員である。

①速さが揃っているか。②指使いができてくるか。出来る子、出来ない子あって、当たり前。この辺をどう子ども達が捉えるかに私の期待が募る。

「OK」が続く。「?」(互いに顔を見合わせる。誰かがOKとつぶやく)OK「全員合格。不安げなあの子に笑みが戻った。

全員に、合格シール3枚ずつ与えゲームセット。最後に私の指揮に合わせて演奏し一切を終了。シール3枚が与えられた達成感、明日にどう繋ぐかが私の課題。夕映えの田園風景に見送られながら、帰路に着く。

三月十一日 小学校訪問二日目 十二時三十分 ピン君と「夢ホーム」を出発

シールを期待する子ども達。その期待をさり気なく外しながら数字合わせゲームに入る。机間巡視をしながら遅れた子どもに手を加える。ゆっくりと指を運ぶ。「出来たっ」。そっとシールを与え、眼を合わせて「OK」?

曲名を入れない楽譜を配る。ゲーム応用である。昨日の基礎編を子ども達の中でどう消化し、今日の課題にどう生かしていくかが山場である。

「Bと似た形を見つけよう」「あつ、あつ。だ」。実に反応が速い。印(記号)の方法を確認し合いゲーム開始。フリーズごとに、丁寧に数字を合わせしていく。聞きなれたメロディーが「キラキラ星」だ。弾きなれた曲。桑原先生との曲だ。子ども達の眼が輝き始めた。合否決定戦。男子、女子に分かれる。こうなると互いに厳しい。引き分けかな。楽譜には、五枚ずつ合格シールが並んだ。

「たのしかった?」「たのしかった」「おもしろかった?」「おもしろかった」「よかった?」「よかった」ピン君と子ども達の、この会話で二日終了。

三月十三日 訪問最終日 演奏発表会。総練習後、グループ発表である。

舞い上がって人差し指一本で弾く子、途中で放棄する子など等。どうにか同一テンポで演奏することが出来た。一朝一夕で成るものではない。花丸、花丸、である。

その後、「一人で弾きたい」「キーボードで弾きたい」と言う子が続出。それぞれの希望を満たして終了。

鍵盤ハーモニカを通して子ども達と向き合った九日間。私にとって、得る事の多い日々ではあったが、様々な課題が見え隠れした九日間でもあった。課題を残し、十九時三十分、ホームの皆さんに見送られ、園を後にする。二十三時四十二分 最終便で帰国の途に着いた。(宮城県石巻市・里親会員)

活動に参加しませんか

ボランティア活動

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農家の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円(分割可)です。

会員として

- 個人会員(年額一口五千元)
- 法人会員(年額一口二万円)
- 里親会員(年額三万円)

会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で。郵便振替口座番号

21世紀のカンボジアを支援する会(口座番号)

0013000160916

※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。 ※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。

事務局便り

■現地事務所では、五年間勤務したスリンが私事により退職し、後任にボレイという女性を採用しました。シエムリアップで七年間、日本語ガイドをした経験があり、日本語は上手です。四月一日から働いています。 ■第二十四回「カンボジアふれあいの旅」の参加者を募集しています。締切りは五月二十日、奮ってご参加ください。



よろしくお願いしま〜す

- 会報「アンコールワット」五月一日付第七十号発行
- カンボジア訪問ミニツアー(五月五日〜二十三日)
- 写真展「アジアの子どもたち」(六月六日〜九日・八王子市)

真珠のように輝く子供たちの瞳に出会ってみませんか?

「夢ホーム」で子ども達と楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な井戸の贈呈式・学用品配布・アンコールワット観光など 第24回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子ども達との交流をはかることができます。特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子ども達が皆様をお待ちしております。併せて学用品配布などのボランティア活動にも参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。



「夢ホーム」の子ども達が皆様をお待ちしています

もちろんカンボジアといえば世界遺産の空庫。アンコールワット観光(オプションツアー)も予定に入れました。なお、募集は原則として本会会員を対象しておりますので、参加される方は、事前に会員登録(一口5,000円)が必要になります。



学校訪問では学用品を配布します

- 【旅行期間】平成25年7月3日(水)〜9日(火) (5泊7日)
- 【募集定員】最少催行人員10名様(定員=30名) 先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。
- 【滞在ホテル】ダイヤモンドホテル(プノンペン)5泊
- 【利用空港】成田空港および関西空港など
- 【旅行日程】3日=成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのプノンペン国際空港へ。 4日=小学校を訪問、図書館贈呈式と学用品配布など 5日=教育支援する里子の家を訪ね 6日=自由行動(オプションでアンコールワット観光あり) 7日=夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物 8日=プノンペン市内観光後、夜8時頃チェックアウト⇒プノンペン国際空港から帰国の途へ 9日=早朝、成田・関西空港などに到着
- 【旅行代金】14万円〜15万円を予定。\*現地までの航空券代、空港税、ビザ申請代、現地での宿泊代、食費、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。\*1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。\*日帰りアンコールワット観光27,000円(希望者のみ)\*傷害保険は各自でおかけください。
- 【締切日】平成25年5月20日(月)

お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会 〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 TEL:03-3991-2854 E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX:03-3557-1213